

全国連盟通信

第30期 No.2
2012年 9月10日
発行責任者
和食昭夫



新日本スポーツ連盟

〒170-0013 東京都豊島区東池袋2-39-2大住ビル402

TEL: 03-3986-5401 FAX: 03-3986-5403

Eメール: cbf31680@pop02.odn.ne.jp URL <http://www.njsf.net>

つなごう 支援の輪

スポーツ祭典と組織づくり

新日本スポーツ連盟会長 永井 博

理事会の論議を聞き、資料を読みながら感じ取ったことは、全国種目組織・都道府県連盟のみなさんが、第29回全国スポーツ祭典を、東北復興支援ということで心をひとつにして、同時にスポーツの祭典として成功させようと創意・工夫をこらし、積極的に取り組んでいる姿です。

東北復興支援の心を数として表しているのが、支援グッズの普及状況です。あの消せるボールペンです。現時点で当初目標を、超過達成しています。この達成によって、被災地選手・チームの参加費援助に充当することが出来るでしょう。スポーツ連盟の真骨頂のひとつだといってよいでしょう。

種目によっては更なる支援を考え、独自の取り組みを進めているところもあります。例えば全国ランニングセンターでは、陸上競技大会に福島、宮城、岩手3県からそれぞれ10名の選手を招待しようと募金活動に取り組んでいます。

こうした活動は、これまで取り組んできたさまざまな東北支援活動とあいまって、東北のスポーツ愛好者との絆をさらに深めることになるでしょう。

同時にスポーツの祭典としての成功させる要は、「スポーツ きみが主人公」の競技版＝「選手が主人公」の競技と運営が、会場一杯に



展開されることです。

対戦相手を、スポーツを愛好する同じ仲間として尊重し、お互いに持てる力を十二分に発揮して競技し、フェアプレイの花を無数に咲かせましょう。また、フェアプレイの花咲かせる競技運営にあたりましょう。

こうした競技と運営によって、「深めよう絆! スポーツは生きる力」という祭典スローガンの大輪の花を、全国に咲かせることが出来るでしょう。

こうした絆と花園の向こうに、組織づくりという課題がくっきりしたかたちで見えてくるでしょう。

第 30 期第 2 回理事会の報告

第 30 期第 2 回理事会は、8 月 25 日、26 日の 2 日間、東京都豊島区の東部区民事務所集会所で開催されました。出席は、理事 28 名と会長・副会長 3 名でした。議事日程は下表のとおりです。今回は、最初に全国種目組織と都道府県連盟の活動報告を行い、各組織・各地域での状況ならびに課題等を共有しました。

第 30 期第 2 回理事会議事日程

8月25日 会場：東部区民事務所第3集会所

運営提案
開会あいさつ＝川野 副会長
理事からの活動報告（都道府県・全国種目）
東北復興支援 第29回全国スポーツ祭典
2014年第30回全国スポーツ祭典の開催地について
スポーツの復興を中心とした支援活動
休憩・移動
局別会議

8月26日 会場：東部区民事務所第3集会所

スポーツ活動・組織局の報告・提案
国際活動局の報告・提案
休憩
スポーツ権・平和運動局の報告・提案
昼食
「日の丸」問題についての基本的な考え方
広報局の報告・提案
総務局の報告・提案
リーダー養成委員会の取り組み
スポーツ科学研究所準備委員会の報告
スポーツの復興を中心とした支援活動と 「原発ゼロの社会をめざす」活動
全体会議の閉会あいさつ＝和食理事長

【開会あいさつ】川野弘之副会長

暑い中、反核・平和マラソンなど御苦労さまです。FSGT・韓国市民連帯との交流も、多くの地方組織や種目で頑張ってもらいました。オリンピックではメダルが多くとれて好い成績でしたが、女子サッカーで「引き分け」という監督の指示がなされたことが残念です。力をすべて出し合って闘ってほしかった。課題はたくさんあります。実りのある理事会にしましょう。

【東北復興支援 第 29 回全国スポーツ祭典】

進捗状況を和食昭夫祭典実行委員長より報告、確認しました。9 月 10 日に『ニュース Vol. 3』を発行しましたので、ご覧ください。

【国際活動局の報告・提案】 4 ページ参照

【スポーツ権・平和運動局】 5 ページ参照

【スポーツ活動・組織局】 6 ページ参照

【広報局】ひろば誌の拡大 7 ページ参照

上記以外では、

- ・2014 年の第 30 回全国スポーツ祭典は、東北ブロックでの開催は困難と判断し、東海ブロックに要請をして年内に方向を出していきます。あわせて 31 回以降の開催地も検討していきます。

- ・「日の丸」問題についての基本的な考え方を議論しました。「なぜ、スポーツ連盟は、『日の丸』を掲げないのか」、「なぜ、『日の丸』の強制に反対するのか」などの疑問をふくめ、率直な議論を行うとともに、スポーツとスポーツ大会等にふさわしい、シンボルやセレモニーのあり方をおおいに議論することをよびかけます。

- ・スポーツの復興を中心とした支援活動では、国際交流の「被災地の子どもたちと一緒に遊ぶ」ほか、「第 15 回復興支援福島スポーツ祭典卓球大会」と女川町でのボランティア活動の報告がありました。10 月 8 日には福島復興支援バドミントン大会が開催されます。

- ・「原発ゼロの社会をめざす」活動について、抗議集会への参加報告と国民各層の運動に参加していくことを確認しました。

- ・「リーダー養成委員会」と「スポーツ科学研究所準備委員会」からの活動報告がありました。創立 50 周年記念事業として準備中です。

- ・2013 年の全国スポーツセミナーは、東北復興支援としての開催を検討していきます。

多様なスポーツ活動を基礎に広い視野から課題にチャレンジしよう

＝第2回理事会を終わって＝

理事長 和食昭夫

<可能性を見逃さず、可能性を切り開くこと>

兵庫県連盟の和田さんから、沖縄少林寺流空手道研究会兵庫支部(以下「空手道研究会」)が県連盟に加盟したいいきさつが報告されました。最初に空手道研究会から「加盟したい」の相談があり、直ちに懇談。その結果、目的、方針は何の問題もない、唯一の障害は県連盟費が高くて払えないということでした。そこで県連盟理事会に経過と実状を報告し論議の結果、連盟費を「減額」することが理事会の合意となり加盟が実現しました。同様にウォーキングも「減額」することになったとのことです。

以上の報告と同時に和田さんが強調したことは、この空手道研究会は全国組織であり、その代表者が「対応するスポーツ連盟に加盟するように」と呼びかけている。こうした可能性を見逃さず働きかけることが今スポーツ連盟に求められていると発言しました。

私は、理事会閉会あいさつで、兵庫県連盟の「可能性を見逃さない」活動に大いに学ぶとともに、それに加えて、空白県への働きかけや出前大会、スポーツ施設整備要求運動、反核平和と原発ゼロの社会をめざす運動など、広い視野にたって「可能性を切り開く」活動にも旺盛に取り組むことを訴えました。「可能性を見逃さず、可能性を切り開く」活動にチャレンジしようではありませんか。



<新たな発展段階を迎えた国際活動>

この夏、30周年を迎えた広島～長崎反核平和マラソンへの参加を主な目的として招待した FSGT 代表団と韓国体育市民連帯との交流が活発に行われました。FSGT の代表団(7人)は、広島に移動する前に被災地宮城県女川町を訪れ、仮設住宅で暮らす子どもたちとスポーツ遊びで交流し、言葉の壁をものともせず、心を通い合わせる交流となりました。韓国体育市民連帯の代表団(4人)は、2010年につづいて2回目の参加。両代表団は日本のランナーとともに、広島～長崎500kmを8月6日から8日の3日間で走り抜きました。酷暑と突然の大雨ありの厳しい条件にもかかわらず、全員元気に長崎平和公園にゴール。

今回の交流活動に際し、宮城県連盟、岩手県連盟、東京都連盟、神奈川県連盟、大阪府連盟、福岡県連盟の6都府県連盟、さらにランニングセンターなどの様々な連盟組織の協力がありました。心から感謝します。これらの交流活動に参加したスポーツ連盟内外の関係者は300人にのぼりました。40年にわたるスポーツ連盟の国際交流活動の発展の要因は、「スポーツは万人の権利」「スポーツは平和とともに」の理念を相互に共有して進めてきたことにあります。

「国際交流活動は、全国レベルの交流にとどまらず、種目組織、地域組織、クラブが主体になってすすめる段階を迎えています(第30回全国総会決議)」。こうした新たな段階にふさわしい国際的なスポーツ交流の基本的な方針を確立するための論議を推進したいと思います。

30期総会で掲げた活動目標は、①諸外国のスポーツフォアオール運動の情報収集と連盟の主張・活動の発信、②国際交流活動を種目組織・地域組織・クラブのレベルまで広げ、これを促進する在日外国人スポーツ交流や「国際活動交流運営細則」の作成、③IOCの承認団体であるCSIT（国際勤労者スポーツ連合）への加盟検討の開始、④創立50周年記念事業としてスポーツ権局とともに国際シンポジウムの準備、⑤2012年5月にギリシャの古代オリンピック4大競技大会会場をめぐるツアー（エーゲ学会との共同開催）開催（結果は「スポーツのひろば」11月号に掲載予定）、の5点でした。国際活動局は、これら活動の前進のため4月から8月まで4回の局会議をおこない、また、局員同士の意思疎通を図るためのメーリングリストの開設、局長・次長間でのスカイプ会議など、をすすめてきました。

2012年広島・長崎反核平和マラソンと一連の関係事業の成功

2012年度前半期の活動の最大のものは、全国連盟・全国RC・福岡実行委員会3者共催の「2012年広島・長崎反核平和マラソン」への外国代表団の招待を成功させることでした。FSGTから7名（3名分はFSGT負担）の招待、韓国市民連帯からは3名、韓国9条の会からは1名、合計11名の招待となりました。外国代表は8月5日広島での連盟主催の「出発・交流集会」で合流し、6日から8日まで、日本人ランナーと共に、反核平和を訴え、元気に走りぬきました。9日から11日までは福岡実行委員会による被爆地長崎の慰霊祭への参加や引き続き九州観光を満喫しました。なお、FSGTはチケット確保の都合で、滞在が1日延長となり、この延長滞在大阪府連盟が引き受けてくれ、FSGTは、大阪ならではの体験をしました。

なお、FSGTとは上記の反核平和マラソン参加以前の日程を活用し、被災地宮城県・女川の視察と女川の子ども達とのスポーツ交流（8月2・3日）を行いました。これには、宮城県、岩手県の代表とランナーが参加し準備と交流を共にしました（この経費は、連盟の「義援金（スポーツ連盟支援募金）」から充当）。4日には、川崎市で2015年までの連盟とFSGTとの交流に関する会議を開催しその交流の大枠を確認しました。この前後に東京都連盟（1日夜）及び神奈川県連盟（4日午後の鎌倉観光と夜の歓迎）それぞれによる歓迎交流行事が取り組まれFSGTと地方との交流も前進しました。韓国市民連帯とは、5日広島の宿舎で、今後の韓国との交流の打ち合わせをおこない、市民連帯から2013年の平和マラソンと国際シンポジウムへの日・仏の招待が提案されました。その後、9日朝の韓・仏の英語によるトップ同士の話し合いで、2013年行事には韓・日・仏の3者参加の確認がなされたように、平和マラソンを基軸に関係国の今後の交流が発展しました。

CSITへの加盟検討開始など

連盟は、昨年11月のCSIT定期総会以降、CSITが北京で本年9月に2012年次総会を開催するとの情報を得ていました。連盟は、加盟検討促進のためCSIT規約の翻訳精査とあわせて、北京総会参加の検討に着手し、あわせてCSITに対して加盟情報提供要請のメールを送付しました。しかし、CSITは、CSIT最大のワールドゲームズ13年度開催が、リオデジャネイロ開催辞退の余波を受けて、年次総会をブルガリアに変更され、連盟は経費の点から総会への参加は断念しました。

国際活動交流運営細則のさらなる検討、在日外国人スポーツ交流の開催、国際シンポジウムへの準備などを含めて、30期目標の達成が引き続きの懸案です。

第2回理事会 スポーツ権・平和運動局からの報告

2012年9月3日 局長 青沼裕之

広島集会(8月5日夜)の報告

8月5日(夜)の広島集会は「第30回広島～長崎反核平和マラソン」の節目に開催された。FSGT代表7名と韓国体育市民連帯代表4名が同席した。沖縄少林寺流空手研究会広島支部の寄隆秀さんに被爆地広島からの発言をして頂いた。

各地の反核平和マラソンの報告では、「核兵器廃絶と原発反対をセットでアピールした」「沿道から例年以上の応援と励ましの声があった」の趣旨の発言が複数あった。この点について局会議では、「核兵器廃絶と原発反対は現時点では別課題であり、あえて一緒にして自治体からの協力拒否や一部市民の反発を買うことはすべきでない」、「否、連盟の方針では原発反対なのだから、自治体の反発があってもセットで訴えるべきだ」の両論が提起されたが、連盟としては当面双方を別個の課題として追求し、できるところでは協力・共同の関係を創るということとなった。

「大阪市市政改革プランと地域スポーツ推進計画のあり方」(仮題)のシンポジウムの開催について

大阪府連盟理事会が大阪市市政改革プランの全体像について学習会を開き、多方面の

意見を聞く計画であるということで、局としては、大阪府連盟理事会の意向に添う形で行動し、時期をみて共同でシンポもしくは討論集会を組織するとことになった。

「自治体への要求運動」の組織化について

局としては、スポーツ基本法の学習と連動させて県連盟としての要求項目をとりまとめるよう希望する。また、先進的な地方連盟の対自治体要請文書や自治体交渉現状を全国に知らせていく。

脱原発と日本のエネルギー政策の転換についての学習会の企画について

今回の理事会で上記テーマの学習会ができなかったため、12月の次回理事会において開催する。講師については日本科学者会議に連絡を取り派遣を要請する。

2020年オリンピック・パラリンピック東京招致への対応について

東京都連盟の運動に協力する形で本局は行動する。東京都連盟理事会と本局のパイプ役を間間さんにしていただく。

韓国体育市民連帯との今後の交流についての報告

国際活動局の報告を参照のこと

2012
SUMMER

日・仏・韓で「草の根国際交流」

この夏、新日本スポーツ連盟はフランスと韓国のスポーツ団体代表団を「2012年広島～長崎反核平和マラソン」に招待し、各地で歓迎交流レセプションが、創意を込めて行われました。



↑鬼ごっこゲームを楽しむ子どもたち

女川の子どもたちと一緒に遊ぶ

国際交流
IN 宮城



フランス代表団が宮城県女川町に赴き、被災地の視察と子どもたちとのスポーツ交流を行いました。子どもたちは、鬼ごっこ・大縄跳び・ドッジボール・卓球などのゲームを楽しみ、歓声を上げて喜ぶ姿も。短い時間でしたが、子どもたちは、自分が孤立しているのではなく、たくさんの激励の手が周りであることを感じたようです。

『スポーツのひろば』10月号より

スポーツ活動・組織局 3月総会以降の活動のまとめ と課題

スポーツ活動・組織局 文責 北川

1、ブロック会議などの動き

ブロック活動の展開は、ひとつの県や種目組織でできないことをお互いの共同で切り開いていくことに意義がある。自分の組織のほかにもう一步進めて、連盟の影響力を全国の隅々までに広げていく志を持って、それぞれの力を発揮していくことが大事である。

この間、関西ブロック、東北ブロックで定期的に会議が持たれた。関西ブロックでは10月28日開催の西日本スポーツセミナーの取り組みの打ち合わせ、東北ブロックでは、結論的には開催は無理ということになったが、2014年の第30回全国スポーツ祭典の開催を受諾するかどうかが真剣に議論された。

まだ未開催の関東ブロック、四国ブロック、九州ブロックでも開催の努力を行う。

そのほかの各ブロックでの動きは、以下の通りである。

中国ブロックの広島で連盟再建を展望して動きを作るということで、5月20日に沖縄少林寺流の「東日本大震災復興支援空手演武大会」が開催される機会を利用して、関係者との懇談を持った。沖縄少林寺流のそれぞれの支部では、スポーツ連盟に加盟する用意があるということなので、連盟側でもっと積極的にアプローチしていく必要がある。

九州ブロックでの展開については、九州の唯一の連盟組織である福岡県連盟と相談し、当面、熊本で新しい動きを作っていこうと話合われた。

2、スポーツを楽しむ語る懇談会の具体化

各ブロックの空白地域で1地域以上を取り組むことを提案します。

取り組み方としては、新しい組織づくりを念頭において、様々な形で取り組んでいくようにする。

例えば、北海道では、9月28日に北海道連盟主催で著名な講師の方を呼んで「スポーツ講演会 in 帯広」を開催し、その地域の関係者に広く呼び掛けていく取り組みを準備している。

東北ブロックの青森では、卓球の組織づくりと平行して、県連盟づくりについて関係者との懇談を進める。

関東ブロックでは、群馬を重点地域として取り組む。卓球、バレーボールで出前大会の開催してきているので、スキー、登山、ウォーキングの関係者にも呼び掛けて懇談会を計画する。

関西ブロックでは、奈良で県連盟つくりを目標に関係者に呼び掛ける。

中国ブロックでは、広島で5/20以降の次の活動を踏み出す。10月ごろにより幅広い関係者との懇談会を計画。

九州ブロックでは、熊本での関係者の会議を計画。

*** 先ず関係者をリストアップし、相談会を設定する。スポーツ活動・組織局の分担を決め日程も決めて取り組む。**

3、出前大会の発展

今年も新しい地域、あるいはしばらく開催していなかったところでの出前大会など含めて旺盛に展開されている。

卓球では、今年初めて40都道府県を超え、41都道府県で開催。全県開催に向けて弾みがつく。ミックスバレーボールでも精力的に出前大会を開催。(9/30—広島 10/14—北海道・中標津 10/14—千葉、10/20—長野・高遠)

*** そのほか、ウォーキング(秋田)、バドミントン[山梨、福島]、バレーボールでも広げている。以上の種目以外でも1地域以上で取り組む。**

4、復興支援福島大会の取り組み

①卓球大会—8月4日(土) 猪苗代町総合体育館 猪苗代町、教育委員会後援

開催種目 ペアマッチ(72P)、シングルス(40) 合計190人 スタッフ23名

支援卓球グッズ<ユニホーム、タオル、ソックスなど800点)の配布

前日に大熊町の教育委員長の嶋貫氏を招いて被災地の状況を聞く

参加費無料として、約50万円の予算で実施(そのうち復興支援金より20万助成有り)

②バドミントン大会

10月8日 磐梯熱海で 30ペア先着無料招待

5、第29回全国スポーツ祭典の地方祭典開催状況の掌握

フォーマットを作成して、集約する 期日、会場、種目、参加者数など

「スポーツのひろば」

各地で拡大の取り組みに力を入れてください

おかげさまで、新規購読 175 部になりました。各組織でのご協力ありがとうございます。しかし、増誌がひろがる一方で減誌するところもあり、今のところキャンペーンを開始してから、プラス 88 部となっています。

1967 年の創刊以降、450 回以上発行しつづけているひろば誌を継続させるためには各都道府県連盟・

種目協議会のご理解とご協力が必要です。是非、ひろば拡大の取り組みに力を入れてください。ますようよろしくお願いいたします。



もっと
スポーツ連盟を
知ろう

通常定価 450円 送料別 5,200円(送料込み)

加盟員の
新規読者の価格 年間 **2,900円**
(送料込みの場合 3,600円)

只今キャンペーン中



「スポーツのひろば」10月号発行!

- ・日仏韓で草の根スポーツ交流
- ・筋肉はどうやって動くの?
- ・反核平和マラソン 2012
- ・スポーツ探検隊「ビーチハンドボール」

ひろば拡大の実践例

○和歌山県連盟

わかやまランニングクラブの総会で購読を訴え、1冊増えました。

○千葉県連盟

大会プログラムの宣伝ページに「ひろば広告」を必ず掲載し、大会で団体責任者に購読を呼びかけました。陸上競技大会プログラムの宣伝ページを見て購読が 1 部あった他、サッカー、テニス、空手、バレーボールで 15 部増誌。千葉県連盟として計 100 部となりました。

○大阪府連盟

1冊 290 円ということなら、ということで購読してもらっています。

○東京都連盟

卓球協議会が、議論をかさねた結果、役員研修費として役員全員が購読することになりました。

まだ取り組みのされていない県、拡大部数の少ない県は取り組みの強化をお願いします。

各地のひろば拡大部数

北海道	1 部
宮城県	4 部
東京都	92 部
千葉県	15 部
神奈川県	21 部
石川県	1 部
静岡県	1 部
愛知県	1 部
三重県	6 部
滋賀県	1 部
京都府	11 部
大阪府	13 部
和歌山県連盟	1 部
福岡県	3 部
個人	4 部

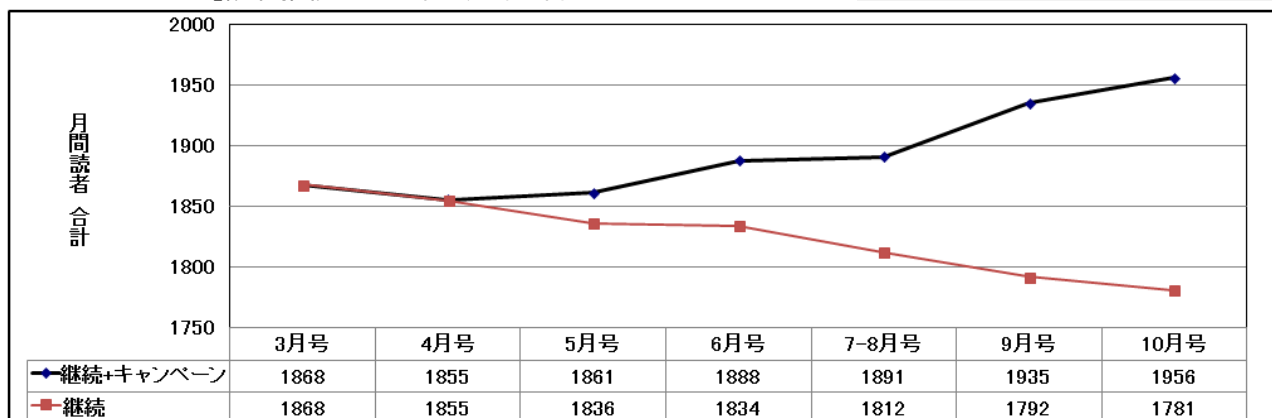
新規購読 175 部に

2012 年 10 月号

全体の購読部数 **1956 部**

* 第 30 回全国総会から +88 部

「スポーツのひろば」読者推移 2012 年 3 月号以降



第30期全国会議及び主要事業予定一覧 (～2013年2月)

月日	全国会議・事業	都道府県連盟・全国種目組織
【2012年】		
8月	25～26日 30期第2回三役会議・理事会	全国スキー：サマーセミナー菅平
9月	1日	和歌山県連盟再建20周年記念レセプション
	3日	スポーツのひろば発行
	23日	東海ブロックセミナー「基本法から学ぶ」
	28日	北海道帯広：スポーツ講演会
10月	1日	スポーツのひろば発行
	7日	全国スポーツ祭典ウォーキング（和歌山）
	26日	北海道：「スポーツ権本法」学習交流会
	27日	福岡：「スポーツ基本法」セミナー
	28日	西日本スポーツセミナー in 滋賀
	11月	1日
12月	3日	全国スポーツ祭典水泳大会（東京）
	3～4日	全国スポーツ祭典ソフトボール大会（福島）
	3～4日	全国スポーツ祭典ハッスルボール大会（愛知）
	10日	全国スポーツ祭典ゴルフ大会（岐阜）
	10～11日	全国スポーツ祭典野球大会（大阪）
	10～11日	全国スポーツ祭典テニス大会（岐阜）
	11日	全国スポーツ祭典陸上競技大会（東京）
	17～18日	全国スポーツ祭典サッカー大会（宮城）
		全国サッカー協シニアサッカー大会（宮城）
	17～18日	全国スポーツ祭典バレーボール大会（愛知）
	24～25日	全国スポーツ祭典卓球大会一般（青森）
	1～2日	全国スポーツ祭典ミックスハッスル大会（徳島）
	2日	富山県連盟総会
4日	スポーツのひろば発行	
8～9日	30期第3回三役会議・理事会	
8～9日	全国スポーツ祭典ハッスル大会（静岡）	
9日	愛知：高蔵寺弾薬庫1周年マラソン	
15～16日	全国スポーツ祭典卓球大会年代別（岡山）	
【2013年】		
1月		全国縦断新春マラソン（全国8ヶ所）
2月	9～10日	労山評議会
	16～17日	全国スキー協カップ
	23～24日	30期第1回評議員会・第4回理事会

8月4日、福島県猪苗代町総合体育館「カメリーナ」で「第15回復興支援福島スポーツ祭典卓球大会（新日本スポーツ連盟全国卓球協議会・東京卓球協議会共催）」が開催されました。

この大会は、スポーツを通じて被災地を励ましていく運動のひとつとして取り組まれ、参加費を無料にして福島県全域に呼びかけました。また、猪苗代町と猪苗代町教育委員会の後援を得て、中学・高校の卓球部にも広く宣伝しました。



集まったウェアをサイズごとに整理するスタッフ

福島県へ

中にはメッセージ付きも



卓球グッズを選ぶ参加者

猪苗代町で参加費無料の卓球大会&卓球グッズ届ける

『スポーツのひろば』10月号より

東北復興支援 「義援金」報告

2012年8月25～26日 第2回理事会資料より

義援金募金 2011年3月～ 全国連盟口座への振り込み分

A義援金(スポーツ連盟支援募金)	募金 合計	8,251,875円
*FSGTからの支援募金の合計 890,011円を含む		
B義援金(公的機関への募金)	募金 合計	178,976円
2011年12月8日朝日新聞厚生文化事業団へ送金		

A義援金(スポーツ連盟支援募金) 充当状況 2011年3月～

被災者お見舞金	3,620,000円
宮城県・岩手県連盟支援金(活動支援、事務所維持支援)	1,300,000円
東北連盟支援金(全国分担金、「スポーツのひろば」誌代)	827,179円
行事・競技会、ボランティア活動への支援金(2012年3月～)	920,000円
充当 合計	6,667,179円

募金 残高 1,584,696円

多くのご支援・ご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。
スポーツ連盟支援募金は、2012年12月まで継続して取り組みます。

A義援金(スポーツ連盟支援募金)の充当活用について

2012年3月の第30回定期総会において、「今後の復興支援の活動は、被災地の青少年を対象とするスポーツ行事・競技会の開催、スポーツ施設・用具の支援などスポーツの復興を軸とした支援活動をすすめます。・・・」と決議されました。

「A義援金(スポーツ連盟支援募金)」の充当活用についても、昨年までの支援項目だけでなく、復興支援のための行事・競技会やボランティア活動等に支援金を活用していき、継続的な取り組みとします。

支援金の目安：【行事・競技会】一つの行事又は競技会で、支出予算の半分以上。最高20万円。【ボランティア活動】交通費、宿泊費の相当額。